

災害時に大切なのは、自分で自分の身を守ること（自助）と、地域住民がお互いに助け合う姿勢（共助）です

防災週間に合わせて、積極的に地域の防災訓練に参加しましょう

9月1日は、大正12年に発生した関東大震災にちなんで「防災の日」とされており、この防災の日を含む一週間（8月30日から9月5日）は「防災週間」として、全国各地で様々な防災訓練が実施されます。

防災訓練は、命を守る行動を身に付ける貴重な機会です。想定した災害から命を守る行動や、災害が発生する前にやるべき行動を自分たちで考え、実践的な訓練を実施することで、災害時に、落ち着いて迅速に行動することが可能となります。

郡上市では、9月3日（日）に白鳥町為真の郡上市合併記念公園周辺において、直下型地震による災害を想定した大規模現地訓練を実施します。

各地域においても、自主防災会による防災訓練、消防団演習訓練が実施されますので、お住まいの地域などで実施される防災訓練への積極的な参加をお願いします。



▲昨年、郡上総合庁舎周辺（八幡町）で行われた大規模現地訓練の様子

緊急地震速報で地震による強い揺れを事前にお知らせします

緊急地震速報は、地震の発生直後に、震源近くの地震計が、はじめに来る弱い揺れ（P波）をキャッチし、気象庁が、地震の起きた場所や規模、予想される揺れの強さを自動計算して、地震の強い揺れ（S波）の前に素早くお知らせするものです。発表されるのは、最大震度5弱以上を予想した場合に、震度4以上が予想される地域であり、テレビ、ラジオ、防災行政無線、携帯電話、スマートフォンを通じて、専用の音（チャイム音、ブザー音）でお知らせします。

緊急地震速報を見聞きしたり、揺れを感じたら、周りの人にも声をかけながら、あわてず、まず身の安全を確保しましょう。

《家庭では》

- 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難する。
- あわてて外に飛び出さない。
- 無理に火を消そうとしない。
- 《鉄道・バスでは》
- つり革、手すりにしっかりつかまる。

《エレベーターでは》

- 最寄りの階に停止させ、すぐに降りる。

《屋外では》

- ブロック塀の倒壊に注意する。
- 看板や割れたガラスの落下に注意する。

《自動車運転中は》

- 急ブレーキはかけず、緩やかに速度を落とす。
- ハザードランプを点灯し、周りの車に注意を促す。

《普段から、備蓄品の準備や、家屋の耐震化、家具の固定を行うなど、地震に備えましょう。》

《台風と集中豪雨に対する備え》

台風や大雨は、毎年大きな災害をもたらします。台風や大雨の危険が迫っているときは、テレビなどの気象情報や、市からお知らせする防災情報に注意し、災害への備えを確認しましょう。

《家の外の備え》

- 大雨が降る前、風が強くなる前に行いましょう。
- 窓や雨戸はしっかりと鍵をかけ、必要に応じて補強する。
- 側溝や排水口は、掃除して水はけをよくしておく。
- 風で飛ばされそうな物は固定するか、家の中に格納する。

《家の中の備え》

- 非常用品の確認

懐中電灯、携帯用ラジオ、救急用品、衣類、非常用食品、携帯ボンベ式コンロ、貴重品などを確認する。

- 室内からの安全対策

飛散防止フィルムなどを窓ガラスに貼ったり、万一の飛来物の飛び込みに備えて、カーテンやブラインドを下ろしておく。

《避難場所の確認》

- ハザードマップで、避難場所と避難経路を確認する。

● 家族で、避難場所や連絡方法などを話し合っておく。

《非常持ち出し品の用意（例）》

- リュックサック
 - 飲料水、乾パンやクラッカー、レトルト食品、缶詰、粉ミルク、哺乳瓶
 - 救急医薬品、常備薬、マスク、紙おむつ、生理用品
 - 現金（小銭もあるとよい）、預金通帳、印鑑、健康保険証
 - 下着、タオル、寝袋、雨具、軍手、靴
 - ナイフ、缶切、鍋や水筒、懐中電灯、ラジオ、電池、ロープ、マッチやライター、ティッシュ、筆記用具、ごみ袋
 - 防災頭巾やヘルメット、予備の眼鏡
- （参考）気象庁ホームページ、ぎふ防災ハンドブック2017年度版